

大 学 院 特 別 講 義

(医歯学先端研究特論)(生命理工学先端研究特論)
(生命理工医療科学先端研究特論)(医歯理工学先端研究特論)

下 記 により大 学 院 特 別 講 義 を行 いますので、多 数 ご来 聴 下 さい。

記

1. 講 師 三光舎 所長 長嶺 敬彦 先生
2. 演 題 こころの不思議へのアプローチ; Approach to Miracle Mind
3. 日 時 2020年3月3日(火)18時00分～20時00分
4. 場 所 10号館2階 歯科心身医学分野 医局
5. 要 旨

歯科心身症で扱う疾患は、器質的疾患が原因とは考えられない慢性の耐えがたい疼痛を示す。因果関係が説明できない感覚は臨床では多く存在し、こころは不思議である。本講義では、こころの不思議へのアプローチを通して、歯科心身症の病態仮説を考えてみたい。最初に、われわれのこころが痛みを感じる過程で、基底核領域のドーパミンが重要であることを、恋愛(失恋)の脳回路、味の意図的記名と Schadenfreude(他人の不幸は蜜の味)から考えてみる。同じドーパミン系が関与する現象として、薬理学的効果がない物質が治療効果を示すプラセボ効果について考えてみる。ところで、歯科心身症では抜歯やインプラントなど歯科治療が誘因となる症例もある。遺伝子が蛋白発現を介して痛み物質を作成するとして、歯科治療がどのようなメカニズムで慢性疼痛の誘因になるか考えてみたい。遺伝的にまったく同じマウスでも腸内細菌が異なれば実験結果が異なる。epigenetics の概念が重要になる。そこで無菌マウス(germ free)の病態を参考に、脳の神経回路の発達やその構成について考えてみる。すなわち adult neurogenesis から歯科心身症へのアプローチの可能性を考えてみる。最後に、実臨床ではバイタルサインなど日常診療に基づくデータを丁寧に蓄積し、解析することで病態が見える可能性があることを提言する。

連絡先: 豊福 明 (歯科心身医学分野 内線 5909)